



憲法が輝く県政へ ⑤

こども病院をなぜポーターアイに〈上〉

兵庫県保険医協会副理事長

武村義人

井戸敏三兵庫県知事は、県立こども病院をポーターアイランドに移転する方針を決定し、今年度予算に「基本設計・実施管理費」として五千八百四十万円を計上した。しかし、医師会など医療関係団体をはじめ、患者団体や障害者団体からも疑問の声が相次いでいる。

東日本大震災においても、沿岸地にあった石巻市立病院が被災し機能できなかつた一方、高台に移転した石巻赤十字病院は、被災せず被災者救援の医療活動の拠点となった。基幹病院を沿岸地に立地することの危険性が教訓として語られている。にもかかわらず、よ

周産期医療守る最後の砦

一県立こども病院だけで、まさに周産期医療を守る最後の砦である。

いうものである。東日本大震災においても、沿岸地にあった石巻市立病院が被災し機能できなかつた一方、高台に移転した石巻赤十字病院は、被災せず被災者救援の医療活動の拠点となった。基幹病院を沿岸地に立地することの危険性が教訓として語られている。にもかかわらず、よ

りにもよって阪神・淡路大震災を経験した兵庫県で、なぜ沿岸地への移転を選択するのか。兵庫県がポーターアイランドへの移転を計画した二〇一一年一月以降の経緯を振り返ってみたい。

こども病院は複数棟からなり、小児救急センターは開設から五年を経過したに過ぎないが、本館は築四十年を経過し建て替えが課題になっていった。兵庫県は当初、現地建て替えの方針だった。

県立こども病院は、「総合周産期母子医療センター」として位置づけられており、一九七〇年に開設された後、一九九四年に周産期医療センター、二〇〇七年に小児救急医療センターが開設されている。「総合周産期母子医療センター」とは、出産前後の時期の医療を対象として産科と新生児科の両方が組み込まれ、相当規模の集中治療管理室などを備えた高度な周産期医療を行う施設。兵庫県下で該当するのは、唯

こども病院は複数棟からなり、小児救急センターは開設から五年を経過したに過ぎないが、本館は築四十年を経過し建て替えが課題になっていった。兵庫県は当初、現地建て替えの方針だった。

国が病院統廃合策が移転計画の契機に

とところが昨年一月二十八日に厚労省から「地域医療再生計画作成指針」の通知があり、これに対応する形で、急速に移転の話が進んだと、当時の

病院長は語っている。「地域医療再生計画」

とは、自公政権時代に病院の統廃合を進めるための手段として設けられ、民主党政権も引き継いだもの。その内容は「病院の統合再編及び一定の病床削減を行う場合」に「八十億円〜百二十億円以下」の国庫を交付するといふもの。「一定の病床削減を行う場合」は「五十億円超〜八十億円以下」、それ以外は「五十億円以下」とされている。

この時点で、県がポーターアイランド移転を目指していることは明らかだったが、その二カ月後の八月、兵庫県が県民への説明として実施した「県立こども病院建替整備基本構想」(案)パブリックコメント」では、ポーターアイランドへの移転は、一言の記載もなかった。

病院長は語っている。「地域医療再生計画」が想定した最高額で、厚労省に申請した。県の再生計画は、全体で十三項目に及ぶが、県立こども病院の建て替え計画だけで、総事業費百三十億円、うち半額の六十億円を基金負担(国庫負担)でまかない、残る六十五億円を県費負担するといふもの。

ともかく、兵庫県は大きく「再生計画」を作成し、昨年六月十六日に

「正式決定」ではなかったから」としている。

(次号に続く)

(次号に続く)